

## 平成 24 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに、以下の通り報告いたします。

学 部 名	文学部
事 業 名	導入教育及び初年次教育科目の授業改善
平成 24 年度実務担当者名	石川則夫
事 業 の 概 要	
<p><b>【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？</b>（いずれかにチェック）</p> <p><input type="checkbox"/>計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/>概ね計画通りであった <input type="checkbox"/>あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/>計画通りではなかった</p> <p>（以下、<b>本年度の推進事業の概要</b>について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）</p> <p><b>【目的】</b>導入・初年次科目の授業改善に関する取り組みを行い、教育効果を高める。→初年次教育科目における到達目標を各学科において確認し、平成 24 年度 1 年生の学科への期待、や関心、目標などについてコンピテンシー診断結果の分析を通して理解することができた。これを踏まえて、平成 25 年度入学者へのきめ細かな対応を各学科で実施している。</p> <p><b>【内容】</b>①平成 18～23 年度に実施した授業アンケートを再活用し、各学科の初年次教育を中心に授業効果、教員の努力、改善点を確認した上で、授業改善に役立てる。→過去 6 年分の授業アンケートのすべて、担当した教員（兼任含む）すべてにわたっての分析データの作成に手間がかかり、専門業者からの納品が 24 年 3 月になってしまったため、十分な検討ができなかった。②文学部 FD 研修会の開催→2 回の講演会・研修会を開催し、文学部教務委員会を中心に初年次教育科目担当者を招集して、ベネッセ社員（キャリアデザイン科目講師）から文学部生の特徴及び授業改善のポイントに関する講演を聴き、質疑応答を踏まえて問題点の共有化ができた。</p> <p><b>【計画】</b>①授業アンケート分析 6～8 月、教務委員会での検討 9～12 月、各学科での検討 1～3 月→データ分析結果が 3 月に出来たので各学科の検討までできなかった。②講演会・研修会の実施 10～3 月講演会を 1 回実施、10～3 月執行部・教務委員を中心に研修会を 2 回実施。→11 月 28 日と 2 月 20 日の 2 回実施したが、共にベネッセ社員（キャリアデザイン科目講師）からの講演と質疑という形式になった。人文系大学の関係者からの講演が実現できなかったのは反省点である。</p> <p><b>【計画性】</b>概ね計画通りではあったが、過去 6 年分の授業アンケートデータ分析については、当初の予定では各学科の導入教育科目に限り、また担当する専任教員のみ分析を考えていたところ、分析業者との相談を重ねるうちに、全科目・全教員のデータ分析表を作成することに変更してしまったことで大幅に完成が遅れてしまった。また、教員個人の授業評価データの経年変化も見える形となったので、安易に提示することもはばかられ、各学科へどれを下ろすのかも決定できないまま平成 24 年度が修了してしまった。当初の計画立案の詰めが甘いところがあったことは反省点である。</p> <p><b>【執行結果】</b>全体の執行率は 68.9%という結果になったが、これには講演・研修会の内容変更に伴うところが大きい。</p>	